



東京学芸大学附属国際中等教育学校  
TOKYO GAKUGEI UNIVERSITY INTERNATIONAL SECONDARY SCHOOL

# 「国際協力と社会貢献」カリキュラム

高校3年生向け

# 1

FIRST STEP

## 授業の目標 (ゴール)

### I 社会とのつながりを実感する

社会貢献活動を通じて地域や人とのつながりを実感し、新たな喜びやキャリア形成のヒントを得て、人生の糧としてもらう

### II 社会貢献を自分ごとにする

実際に寄付活動に参画するなど社会貢献との接点を作り、机上の知識ではなく、体験として身近に感じてもらう

### III 社会貢献に関わる人材を育成する

自分ごとにしたその先に、卒業後も何らかのかたちで社会貢献に関与してもらえるような人材を育成

### I 全員の意見を「引き出す」

#### グループワーク

授業の中で5分でも10分でもグループやペアで話し合う時間をとることで、全員が授業中に意見を発言できるようにする

#### 声掛け

生徒同士の議論に過度に介入しないが、生徒の意見や考えを引き出すための適切な声掛けや合いの手は意識して行う

### II なるべく生徒に「任せる」

#### 詳細な計画を立てない

皆の意見で動いていく授業作りを意識。大きなテーマや資料は与えるが、その先の深掘りの方向は、グループワークなどを通じて生徒に決めさせる

#### ファシリテーター

その日の授業を牽引する生徒を選び、ファシリテーターとして進行を任せる

### III 「接点作り」を工夫する

#### 学習テーマや題材

なるべく生徒の興味関心を惹き、身近に感じてもらえるような社会貢献活動・組織を題材として選ぶようにする

#### ゲストの招待

NPOなど実際に活動している組織・団体を、ゲストスピーカーとして教室に招き、生徒と対話をしてもらう(年間10組織ほど)

### IV 否定せず「肯定する」

#### 行動規範(グランドルール)

「他人を否定しない」「自分ばかり話さない」「人の話を最後まで聞く」という授業のグランドルールを徹底する

### I 教材

- ・「ODA 白書」や社会貢献に関する書籍の抜粋、NPOのパンフレットや資料、関連するニュース記事のコピーなどを都度配布
- ・ゲストスピーカーも教材の一つ。社会貢献に従事する実践者との直接対話は学びとなる

### II 題材の選び方

- ・「国際協力」に関する題材は「政府開発援助 ODA」「非政府組織 (NGO)」を基本とする
- ・その他の題材の選び方は、旬な話題、ネットで検索して時々刻々と情報が更新されるようなものをセレクト

# 2

SECOND STEP

## 授業の指針 (指導スタイル)

# 3

THIRD STEP

## 教材や題材

# 4

FOURTH STEP

## 年度計画と指導の留意点

4月 フェーズ1 **基礎学習25** 社会貢献を取り巻く現状や課題、社会に参加する仕組みを各題材に学ぶ

9月 フェーズ2 **組織研究15** 日本の各種支援組織の役割、存在意義などを理解する

1月 フェーズ3 **実践15** 個別 NPO の分析・評価を経て、クラスで決めた NPO へ寄付する

フェーズ  
学習  
概要や狙い

題材例

個人リサーチ

グループワーク

クラス全体

ゲスト講演例（肩書は当時）

国際貢献	身近な社会貢献	NPO 概論	題材探究	評価基準の策定	個別 NPO の評価	寄付活動
世界規模の大きな社会貢献・支援を学ぶことで、世界的な社会課題の存在と、その解決の必要性を学ぶ	旬で身近な題材を選び、その意義などを学習することで、「自分ごと」へ近づけていく	NPO 全般の役割を学び、社会課題解決に対するソーシャルセクターや市民の力を認識する	個別の支援組織を具体的に分析していくことで、「実践」に向けた準備を整える	NPO やその事業を評価するためのポイントを見極め、クラスで独自の評価基準を作る	クラスで策定した評価基準に照らし、寄付先の候補となる NPO を評価。寄付先を選定する	社会貢献との関わりを当事者として経験することで、将来のアクションへとつなげる
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の ODA 政策</li> <li>国際協力 NGO</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラウドファンディング</li> <li>ふるさと納税</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の NPO 全般</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ財団</li> <li>ソーシャルアクションカンパニー株式会社</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>3keys</li> <li>ワールドシアタープロジェクト</li> <li>アフリカゾウの涙</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アフリカゾウの涙</li> </ul>
「ODA 白書」や Web サイトなどを通じて活動や実態を理解し、疑問点や意見をまとめる	Web サイトなどを通じて JICA など国際協力 NGO の活動や実態を理解し、疑問点や意見をまとめる	題材に関する Web サイトなどを通じて取り組みの実態を理解し、疑問点や意見をまとめる	「寄付白書」や Web サイトなどを通じて NPO 全般の活動や実態を理解し、疑問点や意見をまとめる	教師が題材に選んだ個別組織に関する Web サイトなどを通じて、組織と事業を分析する	NPO のなにを評価するのか、自分なりのポイントや意見をまとめる	Web サイトなどを通じて、寄付先の候補 NPO の活動や実態を理解し、自分なりの意見をまとめる
各自の意見をグループ内（5 人前後）でシェアした上で、グループとしての統一意見・見解をまとめる				各自の評価ポイントや意見をシェアした上で、グループとしての評価基準を作る	寄付先の候補 NPO ごとにグループで分かれ、統一評価基準に沿ってアピールポイントをまとめる	
グループで集約した意見を全体で発表。対話した上で、クラスとしての研究成果を資料にまとめる				各グループの評価基準を全体で発表。対話した上で、クラスとしての統一評価基準にまとめる	各グループ（各 NPO）のアピールポイントをプレゼン。対話の後、多数決で寄付先の NPO を決める	クラウドファンディングなどで寄付の原資を準備し、支援組織に送金する
<p>JICA ニカラグア事務所 高砂大氏</p> <p>JICA の担当者との対話を通じて、ODA への理解をさらに深める</p> <p>ACTION 横田宗氏</p> <p>NGO について学ぶ</p>	<p>ファンドレイジングアドバイザー 宮本聡氏</p> <p>ふるさと納税の仕組みと課題を学ぶ</p> <p>Readyfor 丹羽真奈美氏</p> <p>クラウドファンディングの現状を学ぶ</p>	<p>日本ファンドレイジング協会 鴨崎貴泰氏</p> <p>NPO のソーシャルインパクトを学ぶ</p> <p>補助犬情報センター 橋爪智子氏</p> <p>NPO について学ぶ</p>	<p>世田谷コミュニティ財団 水谷衣里代表</p> <p>コミュニティ財団の役割を学ぶ</p> <p>Freewill Toshi Asaba CEO</p> <p>IT による社会課題解決を学ぶ</p>	<p>非営利組織評価センター 山田泰久氏</p> <p>NPO 評価基準の作成ポイントを学ぶ</p>	<p>にわたりの会 丹羽典子代表</p> <p>外国人の子ども支援を学ぶ</p> <p>親子の未来を支える会 林伸彦代表</p> <p>胎児治療等の支援・啓発について学ぶ</p> <p>WELgee 林将平氏</p> <p>難民支援を学ぶ</p>	

**1 大きな支援から先に扱う**

- ・最終的には大小双方を扱うが、大きな枠組みから学ぶことで社会の全体像を掴める
- ・フェーズ2以降は身近な支援を取り上げるため、授業全体の流れにマッチする

**2 ゲストへの事前共有**

- ・効率的、効果的な対話を行うため、クラスでまとめた意見や生徒の声などは事前にすべてゲストに共有しておく

**1 同じ題材（組織）を使い、「基礎学習」と並行しながら題材に関する探究も行う**

- ・資料の読み込みや生徒同士の話し合いだけでは終わらず、当事者（団体運営者など）と対話をすることで、題材の深い理解につなげる

**2 題材のラインナップに幅を持たせる**

- ・社会貢献の幅広さを生徒に知ってもらうため、研究対象に選ぶ組織は支援内容が重複しないようにする
- ・規模の大小、活動期間の長短など、さまざまな組織を比較検証できるようにする

**1 やらされ感を排除し、責任感を持たせる**

- ・教師ではなく、生徒が評価して選択したNPOなどの支援組織にクラス全体で寄付をする、という趣旨を良く理解させる
- ・寄付の原資はクラウドファンディングなどを活用して生徒自ら集める。特定の組織や企業から、クラスあてに寄付を受けることもある。その際、事前に授業の目的や意図などを伝え、共感してもらった組織とだけパートナーシップを組む

**2 寄付額は多すぎず、少なすぎず**

- ・クラスで寄付する金額は、15万円程度で設定。寄付を受けた組織にとって少なくない額であると同時に、高校生にとっては大きな金額で、責任感が生じる

# 5

FIFTH STEP 

## 生徒の評価

## | 評価方法

- ・ペーパーテストは行わない
- ・授業に臨む姿勢や、授業後のふりかえりレポート、期末に提出してもらったエッセイ（1500字程度）などで評価（年間でふりかえりは10本以上、エッセイは2本）
- ・絶対評価で採点。課題の未提出だったり、内容面での明らかな誤解などがある場合は減点対象とする

## || 評価に対する考え方

- ・発言内容では評価しない（社会貢献全般において、一つの決まった解答があるわけではないため）
- ・エッセイについては事前の相談や添削を促すなどして、生徒が前向きに臨むようにさせる
- ・「ここをもっと伸ばそう」などと、生徒をエンパワーメントするような評価を心がける



**藤木 正史** 東京学芸大学附属国際中等教育学校 教諭

1979年生まれ。大学院時代に、イスラエルとパレスチナの子どもの信頼醸成プログラムを行うNPO法人の活動に参加。2009年より現職。ソーシャルアクションチーム顧問の他、Social Actionコーディネーターとして学校全体の社会貢献活動の支援や、「国際協力と社会貢献」「ファシリテーション実践」などの講義も担当

特集記事は  
こちらからcheck!

